

10月の飼養管理

岡山県酪農試験場

乳牛は精密な機械である

この頃になりますと、今まで乳牛を悩ましていたアブや蚊や暑さが去って、気候もよく、基礎飼料も充分ある気節であります。一方農家にとっても秋風に黄金の波が打ちよせ、収穫を目前にひかえた時期といえましょう。これから冬に至るまでは乳牛にとって、夏瘦を快復し、空胎をなくする絶好の機会ですから秋の収穫期を前に十分な飼養管理を行うべきであります。

乳牛は精密な機械であると言っても過言ではないと思います。充分油をそそがずに動かす場合、機械は摩滅し、又片寄った注油によって一部に故障を起す場合がありますように、乳牛においても同様のことが考えられます。つまり片寄った飼養管理を行いますと、牛乳は急に減少し、体重は減り、思わぬ損失をまねくことがありますから注意を要します。

次に特に10月に注意すべき要点を述べてみたいと思います。

一. 穀類の過食や盗食の防止

乳牛舎と収納舎が同一の棟にあつたり、又別棟であっても納屋の雨戸が開放されていたため乳牛が離れた場合など、穀類の過食や盗食をまねくことがあります。特に豆類やモチ米、モミその他穀物を一度に3升以上も盗食した場合、或は過食により食欲不振の状態の場合は獣医師の診察を乞う必要があります。獣医師

の不在の場合以外は姑息的な自己判断の治療を行わずに診察を受けた方が快復が早く、自然結果的に見てよろしい。

二. 基礎飼料の給与と農場副産物の利用

青草類は野草期から、枯草期に転換の道中で、繊維がだんだんと硬くなり、草質悪化により、飼料としての利用率が低下する時期ですから、基礎飼料として運播の青刈とうもろこしや甘藷蔓等農場副産物を利用します。

甘藷蔓は生のまま与える場合は、できるだけ降霜前に収穫して与えませんと、養分が低下します。一度に多量の収穫をしなければならない場合は、生蔓として給与する外、なるべく乾燥又はサイレージとして越冬飼料にする必要があります。生甘藷は摂氏13°C位の横穴又は立穴に雨露の入らないように貯蔵しますが、切干甘藷とか、いも糠サイレージ（生甘藷100に対し、米糠20-30）として貯える方法もあります。特に甘藷蔓の給与にあたっては、農繁期などは長い蔓のまま投食させている状態を度々見受けますが、この方法は是非やめて頂きたいと思います。できるだけ10cm程度に押切りで切って給与しましょう。長い蔓を連続給与することは、第一胃内に繊維質のかたまりを蓄積させる機会をつくり、第一胃の食滞、鼓脹症、下痢等をまねき、切開手術を行わなければならないことがあります

岡山畜産便り1959.10

から事前に防止するよう注意して頂きたいと思えます。

三. 胃内の異物の除去

乳牛の飼養管理が不十分なため、異物（釘、針金、ピン、その他金物）を飲み下し、そのまま放任しておきますと創傷性の肋膜炎、心嚢炎及び胃炎などを起し、乳牛が重態におちいることがあります。この病気は最近では第一胃の開腹手術によって全快する多くの成績を示しております。又過食のため第一胃膨満が激しく、呼吸困難となった場合、早期手術により1週間位で治った例もあります。しかしこのような外科手術によって除去する前に未然に異物を除去する方法がいろいろあります。まず濃厚飼料中の異物は磁石によって給与前に除去することができますが、土壌中のもの、青刈類、乾草類中のものは、そのまま胃内に入る慮れがあります。そこでこれらを第一胃内にとどめるために市販の棒状磁石を長期間入れて置き、一定の時期にこれを獣医師によって取り出す方法が一番よいと思えます。先日もこんな例がありました。津山市内の或るジャージー飼育農家で、今から2年半前に異物を第一胃内にとどめさせるため2頭にそれぞれ棒状磁石を1本入れて置き、これを先般獣医師に依頼して取り出した所、沢山の釘、針金等を取り出すことができました。その内容を見ますと、濃厚飼料中であつたと思われる釘、機械の止ピン、砂鉄、澱粉粕中であつた釘（澱粉粕を粉碎した際釘が圧変している）、果樹園（葡萄園）の下草として給与したラクノクローバー中に混ざ

っていた袋の止金といった具合に種々雑多であります。

この点から考えてみますと果樹園の下草を利用される酪農家にとっては、特に第一胃内の異物除去については注意して頂きたいと思えます。しかし第一胃を穿いて創傷性心嚢炎等を起した場合は、獣医師の適切な診断により早期発見につとめ、治癒困難と認められるものは早目に廃用処分を行うべきであります。

四. 管理

10月下旬から早い所では降霜がみられ、朝夕の気温が急冷し始めますから、感冒に侵されないように、牛舎の破損箇所を修理し、気温の上下によって窓の開閉或いは敷藁の増給をはかります。又日光浴を兼ねて午前1回、午後1回運動場に出すか、つなぎ放牧又は追運動を1日1回－2回程度行ってやるとよろしい。

農繁期にも自由な運動をさせるため1頭当り最低2坪以上の運動場を牛舎に隣接して是非設けたいものです。